

# 政宗騎馬像余話

## 小室達・日記から



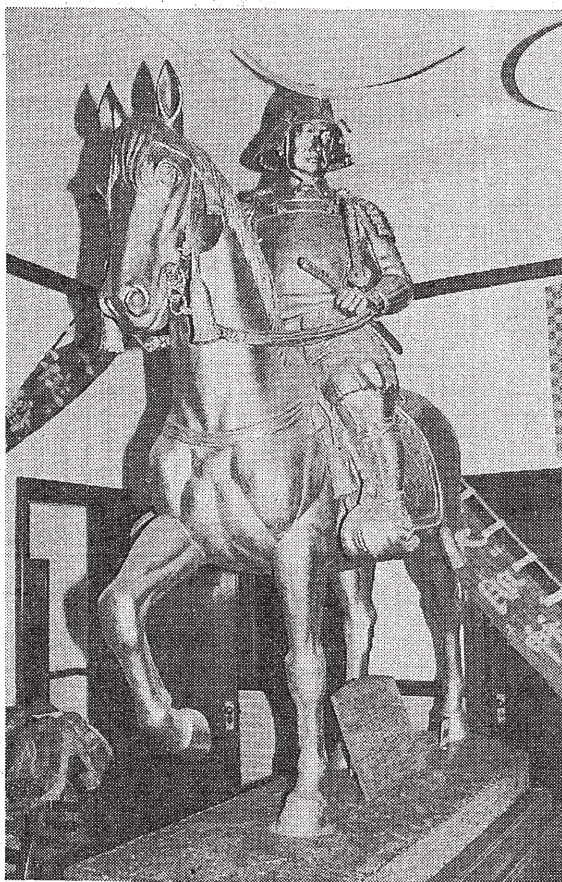
▷ 11

歴史は時折、奇妙ないた と伊達政宗騎馬像をめぐり、そして待望の長男・理嗣が生まれ、小室家は、三重を

に気付かれた  
だろか。  
小室が昭和  
十年、三十七  
歳の若き政宗  
の雄姿を作り  
上げた時、小  
室もまた新進  
気鋭の彫刻家  
で、うとうと  
七年だった。

## 空白の時代

の喜びに沸く。  
十年後の二十七年七月、山  
梨県の甲府に疎開していた  
小室の娘り子が空襲を受け  
けて死す。その四カ月後に  
の作者による白セメント製の  
の平服像につ  
た。  
ほぼ十年の  
サイクルで巡  
ってきた明と暗は「暗」で  
打ち切られそうにみえた。  
が、やはり十年ほどたった  
三十九年、騎馬像がやっと



岩倉の竹駒神社馬事博物館には、小室が昭和12年に奉納した原寸大の騎馬像がある。『空白の時代』に騎馬像を見るならここに詳しくなかった

復元され「明」に戻った。  
歴史のいたよりであるう  
か。それはともかく、騎馬像  
が十九年に供出されてから  
平服像が建つまでは、空白

# 繰り返した明暗

白セメントが付けられ  
「永久に遷らぬ政宗の  
銅像」と見出しがついて  
いた。

この台の上に銅像がつ  
くられるときのことを知っ  
ていた人があるだろうか。  
またその像が姿を消した  
ききつは、昭和十年伊  
達政宗三百年祭のとき、県  
内五芳の青年団員が希望を  
実現して銅像をつくったと  
いうその経費が当時約四万  
二千円、三年がかりで制作  
した像をトラックに積み  
はるはる東京から運び入れ  
られたものだ。それも十九  
年、銅像出陣の名目であ  
り、金圓統制会社ごろがさ  
る身となった。銅像はひ  
に永久のものではありえな  
かった。しかし青年の意は  
けは永久に新しくよみがえ  
る。今、台の下で聞く機體  
のささやき、空を空台上に  
描く平和への立役、空白の  
像は若き世代の胸にどんな  
真像を結んでゆくのだろう  
か。23・7・8 河北新  
報

撤去されてからたつた四  
年しかたっていないのに、  
早くも人々は騎馬像のこと  
を忘れてしまった。戦後  
の生活難に追われて、銅像  
のことなど感傷的に考へる  
余裕がなかったのかもしれない。  
騎馬像が消えた台座  
の上に、もう一度像を乗せ

の時代、とても呼ぶことが  
できる。小室のスクラップ  
帳に張ってあった北新報の河  
北新報に面白い記事が載っ  
ている。像も何もない台座  
の写真のわりに「復讐の空

ようとするまでには、その  
後五年の歳月が必要だっ  
た。  
友人から送られてきた河  
北新報の「復讐の空白」の  
記事を小室はどんな思いを  
秘めてスクラップ帳に張り  
付けたのだろうか。騎馬像  
をめぐる小室のスクラップ  
帳は、この記事で締めく  
られている。

◇